

コロナ禍における中国茶の輸入の、今後と展望

中国茶の輸入状況は依然として厳しい

2022年3月22日、日本では「まん延防止等重点措置」がすべての都道府県で解除となり、感染防止対策は継続しながらではあります。経済活動が再開。年度末から年度はじめにかけて、就職や卒業、進学等に伴う人の移動や会食機会は増加すると見られており、ずっと苦しい立場に立たされていた外食産業や観光業なども、通常営業に向けて動きはじめました。その影響もあり、弊社の中国茶の出荷量も急増。しかし、依然として輸入の遅れは解消されていません。

その原因は圓卓205号でも述べたように、燃料の高騰やコンテナ船の不足といった物流の問題があります。また、中国茶に限って言えば、今年の3月に入ってから、中国国内の新型コロナウイルス



ス感染症（以下、コロナウイルス）の感染者数が増えたことが大きく影響しています。そのため、輸入状況の厳しさは、しばらく続きそうです。

今後も続くであろう国際物流の混乱

中国では、コロナウイルスに対して「ダイナミックゼロコロナ」という政策を行っており、感染者が出た地域では、その都度、本格的なロックダウンをしています。しかし、現在のオミクロン株



明山茶業株式会社 社長 張文昕
取締役 張文昕

1988年上海より来日。名門中国料理店を経て現在等勤務。生涯学習講師、中国茶高級評茶員。特技は卓球、イラスト。好きな食べ物は大戸屋の魚定食。

で軽症や無症状の感染者が大半を占めるようになったことで、新しいやり方を打ち出すようになりました。例えば、上海市では、市を一斉にロックダウンするのではなく、市をいくつかに分けて、プロックごとに48時間内に全住民のPCR検査を実施します。結果が出るまでの48時間内は人の移動を制限し、陽性者がいなければ解除する、という流れです。

先日、上海市内にある弊社中国取引先の物流センターがPCR検査対象の地域内にあつたため、丸3日間、中国茶を出荷することができませんでした。福州にある契約工場も同様にPCR検査が行われたことで、日本向けのお茶の出荷は遅れました。

今後も、感染者数が減らない限り、この「ダイナミックゼロコロナ」政策は続くと思われる。依然としてコロナウイルスによる国際物流の混乱は避けられないでしょう。

中国にある中国茶の産地からの情報によると、今年は天候不順がなく、お茶の出来は上々とのこと。しかし、生産者が感染したら収穫や製茶が遅れるため、当然、物流も影響を受けます。中国茶に限らず、すべての生産者や輸出入貨物に関わる関係者にとって、厳しい状況は変わりません。

安定供給のために我々ができること

この苦境を乗り越え、さらにお客様に安定して中国茶を提供するには、さまざまなリスクを想定しながらも、新たな取り組みにチャレンジしていく必要があります。例えば、弊社の場合はコストが高くとも、航空貨物便や航空チャーター便を使うなどして、なんとか欠品することなく、希望日時においしいお茶を届けるよう努力していく所存でございます。

コロナ禍となり3年目を迎え、各国ともその影響は落ちついたかに見えた矢先に、感染者数の増加さらには、ウクライナ危機という新たなリスク発生に嘆息していますが、1日も早い終息と世界平和を願うばかりです。